

【令和元年度第5回】江差町総合計画策定審議会 議事録

開催日時 令和2年2月21日（金）  
午後3時30分～午後5時00分  
開催場所 江差町役場 1階 保健センター

[会議次第]

- 1 開会
- 2 審議会長挨拶 江差商工会長 赤石 智恵美
- 3 会議成立宣言 江差町総合計画策定審議会規則第4条第3項
- 4 議長選出 江差町総合計画策定審議会規則第4条第2項
- 5 議事  
報告第1号 事務の取組状況について…議案3ページ  
議案第1号 第6次総合計画原案から最終案の変更点について…別紙、配布資料  
議事第2号 今後のスケジュール案について…議案3ページ
- 6 答申
- 7 町長挨拶 江差町長 照井 誉之介
- 8 意見交換
- 9 その他
- 10 閉会

[出席者]

◎審議会委員 会長 赤石 智恵美  
副会長 古地 順一郎  
委員 萩原 香澄, 田中 利明, 浅見 尚資, 田畑 昌伸, 飯田 隆志  
堀田 俊一, 東野 政史, 中島 晶子, 三上 修吾, 久米 早苗  
金子 剛, 田上 香  
委任状 高岡 広明, 高島 慶太, 植松 愛, 庄司 寛, 石岡 典子  
小笠原 裕章  
以上20名（全20名中）

◎町 まちづくり推進課 照井 誉之介<sup>町長</sup>, 田畑 明<sup>副町長</sup>, 太田 誠<sup>教育長</sup>  
出崎 雄司<sup>課長</sup>, 長尾 恵一<sup>主幹</sup>, 西山 和男<sup>係長</sup>  
以上6名

◎株式会社ぎょうせい 木戸 隆<sup>研究員</sup>  
以上1名

合計27名

## 議 事 録

午後 3 時30分

### 1 開会

(事務局)

令和元年度第 5 回江差町総合計画策定審議会を開会します。

### 2 審議会長挨拶

(赤石会長)

皆様こんにちは。今回は第 5 回の江差町総合計画策定審議会でございます。本日は、お忙しいなか多くの策定審議会委員の皆様にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。昨年の 7 月 9 日から何度も集まっていたいて、皆様から貴重なご意見を頂戴してまいりました。

特に前回は、まちづくりの目標、キャッチコピーをつくるということで、皆様の熱い思いを伝えていただきました。皆様の「江差町にもっと良くなってほしい」「まちをこれからも大切にしていきたい」といった声。熱い思いがまるで炸裂したかのように、火花を散らして意見が飛び交ったところがございます。しかし残念ながら、その場では決定することが出来ず、その後、古地副会長と事務局と私とで連絡を取り合いながら、苦しみながら積み上げて出来上がった目標が今日の資料に掲載されております。会議の中で出た話と違うのではないかと、ズレているのではないかと思う方もいるかもしれませんが、この策定のプロセスにつきましては、後ほど事務局から丁寧に説明させていただきたいと思っております。

今までも、皆様から貴重なご意見をたくさんいただいた訳ではございますが、この計画はこの先、10年を見越してつくられております。もしかしたら皆様は、今までの会議の中でもっと訴えれば良かった点や、歳月を重ねていくうちに現状と乖離していくことも考えられる訳ではございますが、この計画は毎年一度、皆様に集まっていたいただきまして、行政がきちんとこの計画に沿って事業を進めているかどうか、またその時の状況がこの計画に沿っているかどうか、検証していくことになっております。その時々には皆様から意見を頂戴しながら、この計画を育てていきたいと思っております。

今日は最終確認の日となります。事務局から訂正箇所を報告していただき、その後承認をいただき、いよいよ皆様の熱い思いを、そして色々な様々な機会に町民から寄せられた町に対する思いがこもった総合計画を、会長である私が本日、照井町長に答申書として手交する運びとなっております。その時には、私と一緒に皆様も思いを込めて手交する際には見守っていただければと思います。今回は最後の策定審議会でございます。最後までよろしくお願いいたします。

### 3 会議成立宣言（江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 3 項）

(事務局)

江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 3 項に基づき、本日、委員 20 名中 14 名の本人出席、6 名の委任状出席ということで合計出席数 20 名となり、過半数以上であることから、本審議会が成立しておりますことを宣言します。

### 4 議長選出（江差町総合計画策定審議会規則第 4 条第 2 項）

(事務局)

続きまして、議長の選出でございます。江差町総合計画策定審議会の規則第 4 条第 2 項に基づき、議長は会長があたることとなっておりますので、この後の議事進行につきましては、閉会まで赤石会長にお願い申し上げます。

5 議事

(赤石議長)

報告第1号について事務局から説明を求めます。

(事務局)

報告第1号 事務の取組状況について

それでは、議案3ページをご覧ください。中段少し下に、2月21日、本日の第5回審議会の記載があります。それより前の網掛け部分、1月8日からの説明となります。

1月8日、令和2年度推進交付金の事前相談に係る書類を、振興局を経由して内閣府へ提出しました。17日、パブコメで公表する次期計画の原案が完成しました。この段階で、前回審議会で宿題とされていたキャッチコピーを決定しました。20日、パブコメを開始しました。町のホームページ及び庁舎ロビーにて計画書原案を公表しました。22日、令和2年度推進交付金の実施計画と地域再生計画を内閣府に本提出しました。事業名は記載のとおりですが、事業内容は、みらい機構を主体とした江差エコシステム、これはヒト・モノ・カネが効率的に循環する構造をこのように称しておりますが、そのエコシステムを創りあげるため、みらい機構を拠点とする様々な環境整備を行うというものです。具体的には、5点。一つ目はみらい機構のサイトで宿泊予約や体験メニュー申し込みを受け付けるワンストップ窓口の構築、二つ目は同サイトの多言語化、三つ目は体験メニューや周辺地域と連携した着地型旅行商品づくり、四つ目は観光における経済波及効果を見える化のための統計調査等、五つ目はこれらについて大学連携を通じながら取り組みを進めていくというものです。事業期間は令和2年度から3か年。事業費は令和2年度が980万円、3か年全体では3,390万円。交付金は、補助率1/2ですので、令和2年度で490万円、3か年全体で1,690万円を見込んでおります。

続いて2月3日、15日間のパブコメを終了しました。特に意見はございませんでした。7日、パブコメの結果をウェブにて公表しました。また、本日提案の答申書案が完成しました。10日、議会特別委員会に出席し計画の原案について提示しました。議会からは、小野寺議員から大きく2点の意見が出されました。一つ目は人口ビジョンの推計が実態と合わないのではないかとということ、二つ目は公園施策が1章外出しになったことは評価できるが、子ども子育ての施策が弱いと思う、というものでした。一つ目の回答として、人口減少は食い止められないことを認めるが、それを緩やかにするための施策に力を注いでいくこと、施策のターゲットを明確にしていること、第1期の取組みの効果が一定程度あったとの分析結果から、取組みをさらに深化させていくこと、国の高齢化率と同一の目標設定をもって持続的なまちづくりを進めていくこととしている旨を説明し理解を求めました。二つ目の回答として、令和2年度から第2期の子ども子育て支援事業計画と第1期子どもの貧困計画がスタートすることから、それぞれの計画の令和3年度以降の事業展開を見込むべく下地づくりの作業が、新年度から始まっていくことを説明しました。なお、特別委員会からの意見報告につきましては、議会では、中間あるいは最終の報告のタイミングを現在検討中のようですが、おそらくは3月定例会で何等かの報告があるのかと思います。最後に18日、本日提案となります次期計画の最終案が完成しました。この間、皆様方から様々なご意見をいただきましたことにつきまして、お礼を申し上げます。ありがとうございました。以上でございます。

午後3時40分

(赤石議長)

ただいま説明につきまして、質問・ご意見等ございませんでしょうか。

(古地副委員長)

小野寺議員からの発言で、人口ビジョンの見通しが甘いのではないかと、乖離しているのではな

いかということ、楽観的過ぎるということだったのでしょうか。

(事務局)

そうですね。どちらかというと、ターゲットをU I Jターンに絞って、30人、30人と年間で60人と、本当に食い止められるのかどうかというようなお話ぶりでした。まずは、挑戦的な戦略を練って、ターゲットを絞って取組むということが、総合戦略ということだと思います。少し背伸びをしながら、そこに向かっていくことを前提にこの人口ビジョンはできております。それと、2期の総合戦略の生産年齢人口が、当初の右肩下がりが少し緩やかになっておりますので、確実に15歳以上から65歳未満の方々が少しこの地域に張り付いてきているのではないかと、ということをお説明させていただきました。

(赤石議長)

他に質疑等はございませんか。

(なしの声)

(赤石議長)

ないようですので、報告第1号について承認される方の拍手を求めます。

(拍手全員)

(赤石議長)

それでは承認を確認しましたので、次に議案第1号について事務局より説明を求めます。

午後3時43分

(事務局)

議案第1号 第6次総合計画原案から最終案の変更点について

それでは、お手元に配布しました2種類の資料、タイトルに「原案から最終案への主な変更点」とカラーでA4横づかい「見え消し」の資料。これに基づき説明します。文言修正等軽微な変更は省略して、主なもののみ説明させていただきますことをご了承ください。

それでは、説明に入りますが、カラー見え消し資料を持ちながら聞いてください。まず27ページ、キャッチコピーの説明文です。キャッチコピーに込められた意味は、本文に記載のとおりなのですが、もう少し補足を入れながら説明したいと思っております。キャッチコピーに対する皆様のご意見については、第3回・第4回審議会で様々に寄せられましたが、大きく7つにまとめてみました。

一つ目は、統一的なコピーが必要という意見。一つのコピーにみんながまとまっていくという視点。「エエ町、江差」をサブコピーにしたメインコピーをこの10年間あらゆる機会に使っていきます。二つ目は、わかりやすく端的にまとめること。この間の議論の積み重ねを、この2行にまとめました。三つ目は、けっして排他的じゃない、疎外感を抱かせない関係づくり、SDGsの理念にもつながる寛容で包摂的なひとづくり・まちづくりを進めること。四つ目は、まちづくりの目線は全国に向けてということ。三つ目・四つ目については、町民に限定せず江差に関係してくださるすべての方も含めて、「みんなでつくる」という所に意味を込めました。五つ目は、誇りを持つ、誇りを引き継ぐということ。誇りにはいろんな要素が含まれていて、それは歴史・文化であったり経済であったり、人や自然・景観であったりですが、そういったものすべては、暮らしの中に溶け込んでいるとして「誇りある暮らし」としました。六つ目は、持続性ということ。いにしえから受け継がれてきた「遺産」つまり「誇りある暮らし」に凝縮しましたが、これを「未来」に紡ぎます。最後七つ目は、取り組む主体。これは最初から一貫してきたキーワードですが、

「自分たちごと」です。けっして他人事にしない、かといって自分だけのことではなく自分と他人も含めて「自分たちごと」で課題や解決を考えていく。計画は作りっぱなしでなく、みんなで見守り育てていく。そのことが「みんなで作る自分たちごとのまちづくり」に込められています。そして「エエ町、江差」になっていく。このような構成でキャッチコピーを考えた次第です。ぜひご理解いただき、ともに歩んでいただければと思います。

次に51ページ、総合戦略の2本目の矢「江差文化体験交流づくりで仕事をつくる」の具体的施策に、北の江の島構想の着実な推進を追加しました。これは地方創生推進交付金の将来的な取り込みを意識したものです。次に53ページ、総合戦略の3本目の矢「江差っ子チャレンジ支援で仕事をつくる」の具体的施策に、住宅長寿命化対策の推進を追加しました。これは住宅リフォーム等につながる書き込みです。同様の追加がこのあと103ページと108ページにもあります。次に64と65ページ、人口減少・少子高齢化等に伴う中小企業・小規模事業者への経営安定化対策を盛り込みました。次に76ページ、子ども子育て支援の継続施策に、他市町村の医療機関で受診する妊産婦検診及び出産時交通費助成を追加しました。これは新年度予算の新規事業です。同様の追加がこのあと85ページにもあります。最後に、115ページ。地方公共交通・情報通信の基本方針と継続施策に、高速データ通信網の基盤整備と、鹹川地区に一部発生している風車の影響と思われる地上テレビ放送の受信障害への対応について追加しました。これは、12月の議会特別委員会にて出された出崎議員の意見に対応する部分です。

もう一点、古地副委員長からSDGsのマークが小さくて見えないのではないかとのご指摘をいただきました。今日の段階では整理されておりませんが、製本段階では白黒になってしまっていますが、もう少し字がにじまないように明確にしていきたいと考えております。また、行間等につきましては、皆様にお示ししているものから若干変更となることも予想されますが、情報の内容につきましては変更となる部分はありませんのでその部分につきましても、ご了承いただきますようよろしくお願いいたします。以上でございます。ご審議方よろしくお願いいたします。

(赤石議長)

議案第1号について、説明が終わりました。質疑・意見を求めます。何かございませんでしょうか。

私の方から先に発言させていただきますが、皆様方のお気持ちの中に、言葉には出さないけれども、まちづくりの目標のキャッチコピーの部分で、先程も申し上げましたが、短い方が良いとか、「いにしえ」という言葉を使いたいというお話などがたくさん出ておりました。議事録を読み返した時にも、こういうお話をたくさんいただいたことを思い出したのですが、古地副委員長と事務局と色々話しをした時に、「誇りある」が一番前に来ているところに違和感を持たれないだろうかと思った時にも、「みんなで作る」という言葉を入れさせていただいて、昔、自分達がやってきたことを若い人達に押し付けるようなそんな「誇り」ではなくて、その「誇り」の中には、「いにしえ」を大事する気持ちだとか、今、マチにある自分達の財産を大事することだとか、みんなで何かをやっていこうとする気持ちを大事にするとか、そのような今江差にある良い物を全てひっくるめて、いにしえからくるものも全てひっくるめて、自然も含めて、「誇り」という言葉にさせていただいたというところがございます。

また、短いキャッチコピーという声もあったのですが、これはみんなで唱えて「さあ、これです」というものではなく、謳い文句のようにいうものではなく、この総合計画をつくるにあたって、ここにあるようにまちづくりの目標として掲げている文言ですので、言いやすいとか、その部分にこだわらなくても良いと考え、少し長くなってしまいました。長くはなりましたが、誇りある暮らしを未来へ紡ぐんだ。伝えるだけではなく、「紡ぐ」ということですので、縦糸と横糸を合わせて1枚の布をつくっていくように、色々な思いを重ねていくとの思い。そして、みんなで作る。決してこれは、他人事ではなく、みんなと自分と一緒にやっていくまちづくりなんだという思いを込めて、このような文言になった次第でございます。もし、疑問に思っている方がおられましたら、そのようなことでご理解をお願いしたいと思います。

(A委員)

年末の27日の会議を欠席させていただいたので、このキャッチコピーの部分については気になっておりました。今、見ると非常に良いものになっていると安心した部分とうれしい気持ちがあります。これでもう決まって、製本されて、今後、このキャッチコピーが江差町のどの部分に掲載されるのか。例えば、道路の看板に掲示されるとか、今現在で決まっている部分はありますか。

(事務局)

今現在、これをどこに掲げるという決まったことはございませんが、前回の27日の会議の中では「エエ町、江差」というキャッチコピーがこの総合計画の総称ということで、各分野別の計画にも、この「エエ町、江差」がきっと至る所で目につくようになっていくと思います。ですから、都市計画マスタープランにも別のフレーズがある訳ですが、これを目立たせるというよりも、最後は「エエ町、江差」という形で使っていければと思います。ただし、A委員がおっしゃるとおり、総合計画ができて、ダイジェスト版が各世帯に配布されます。その中では当然、キャッチコピーについても全世帯にお示ししていこうと思っております。

(赤石議長)

『何々〇〇「エエ町、江差」』とか、そんな感じで使われていくということですね。他にございませんか。

(B委員)

今の部分に関連しますが、ロゴの部分は広く使えるのですか。使っていくということでよろしいですか。例えば、社会福祉協議会で共同募金のバッジを去年から作成しておりまして、しげっちを使用させていただきました。事務局内部では、次年度に「エエ町、江差」のロゴを使いたいという意見が出ています。そういった場合の相談はどこへ行けば良いのでしょうか。

(事務局)

まちづくり推進課に「エエ町、江差」の使用に関する申請をしていただければ良いです。当課に来ていただければ、いつでもフォーマットをお出しします。

(赤石議長)

例えば新商品を作ったり、商工業者が自分で作った商品につけても良いものですか。

(事務局)

申請していただいて、庁内で決裁し許可という手続きになります。色々なものに使ってほしいという趣旨だと思っておりますので、内部で精査はしますが、許可基準に合致していれば問題ないものと思います。

(古地副委員長)

将来的に、WEBサイトに載せたりしますか。

(事務局)

これまでは総合戦略の中での「エエ町、江差」だったのですが、27日の会議の中で、もう少し前に出して行きましょと皆さんで確認が取れておりますから、それを踏まえて、当課でもHP等でPRをしていければと思います。

(赤石議長)

「エエ町、江差」がついていると、それが連帯感につながると思います。「エエ町、江差」が入った商品などに協力したくなるようになっていくと、個人的には良いと思いました。他にご質問・ご意見はございませんか。

(なしの声)

(赤石議長)

それでは、議案第1号に承認いただける方の拍手を求めます。

(拍手全員)

(赤石議長)

只今の拍手により、議案第1号は承認されました。

午後4時00分

(赤石議長)

次に、議案第2号について事務局より説明願います。

(事務局)

議案第2号 今後のスケジュール案について

それでは、再び議案3ページをご覧ください。3月4日からの説明になります。3月4日、最終の庁内策定委員会を開催し、各課長に計画最終案と答申書を提示します。3月11・12日、3月定例会に、基本構想を上程します。資料としては、議決の対象ではないのですが、基本計画も添付します。ですので、本日と同じ資料をお配りすることになります。3月下旬、令和2年度推進交付金の内示が出ます。合わせて地域再生計画の認定が通知されます。4月1日、いよいよ次期計画がスタートします。また、推進交付金の交付決定日でもあります。4月中旬、製本となった計画書を関係先や皆様に配布します。4月下旬、5月号町広報紙に概要版を折り込みます。配布は5月1日の予定です。4月号広報紙にも、審議経過等の掲載を考えております。

なお、ここには記載がございませんが、来年度の審議会につきましては、今年の夏・秋。月にして言えば7月から11月までの間に1～2回開催する予定で考えております。内容につきましては、3月定例会で上程する町の新年度予算の事務事業、つまり次期総合計画の実施計画についてです。基本計画31分野の施策にそれら事務事業を割り付けた資料を提示して、皆様にご審議いただくこととなります。令和2年度以降10年間は、まさに計画を見守り育てていく作業になっていきます。

このため、前にも説明いたしました、来月には任期の更新手続きを進めさせていただきます。次の任期は、前期計画期間の5年とさせていただきたいと考えています。手続きにつきましては、既にご承認いただいておりますので、電話確認を行わずに書類のやり取りのみで事務的に進めさせていただきます。この点につきましても改めてお諮りしご承認をお願いしたいと思います。以上でございます。

(赤石議長)

事務局からの説明が終わりました。これからも委員の皆様には末永くお付き合いをお願いしたいというところでございます。年に一度、同期会のように顔を合わせながら「あれはまだだね」「これはどうなっているのだろうか」そのようなご意見を皆様から頂戴したいと思っておりますので、普段から行政の動きにつきまして、情報を持ちながら、集まっていただければと思います。その

他にも色々と説明がありましたが、ご質問などありませんでしょうか。

(なしの声)

(赤石議長)

それでは、議案第2号に承認いただける方の拍手を求めます。

(拍手全員)

(赤石議長)

只今の拍手により、議案第2号は承認されました。

午後4時05分

(休 憩)

午後4時15分

6 答申

(事務局)

それでは、先ほどご審議いただいて、江差町総合計画が決まりました。ここで、赤石会長から照井町長に答申書を手交いたします。赤石会長、照井町長よろしく願います。

(赤石会長)

～答申書を全文読み上げ手交した。～

午後4時20分

7 町長挨拶

(照井町長)

皆さんこんにちは。大変お忙しいなか江差町総合計画策定のため、たいへん長い間ご議論いただきまして誠にありがとうございました。感謝申し上げます。また次期の総合戦略についても同時にご議論いただいたということで今、答申をいただいたところでございます。

皆様の声がしっかりとこの計画に反映されているものと考えております。非常に厳しい人口減少のなか、江差町がどのように未来に向かってこのマチの魅力や暮らしを守っていくのか、真剣に考えなければならない時代に入ってきていると思います。そういうなかで行政が果たす役割は限界がきているところもあります。限られた財源のなかで、どのようにサービスを向上させていくのか、非常に難しい時代であると認識しているところでございます。

そのようななかで、江差の魅力は地域住民の顔が見える関係が築かれていて、そして農業・漁業・商業の基盤に支えられ、地域住民の暮らしが営まれている。未来に向かって、特にこの10年、勝負の10年だと思っております。ぜひ今回、総合計画に掲げられた施策あるいは理念をしっかりと行政の中でも職員一人ひとりに浸透させ、向かうべき未来に向かってしっかりと皆様と共に向かっていきたいと思っております。これは、行政だけでできることではありません。今回の策定に携わった委員皆様のそれぞれの立場から、色々とまちづくりにご協力を賜っていると認識しております。引き続きこの計画に基づいて、皆様と一緒に行動できるような関係をつくっていければと思っております。まずはこの10年間、ぜひ皆様と共に、一緒にこの総合計画に則って歩んでいきたいと思っておりますので、よろしく願います。本日までこの答申に向けてご議論いただきましたことに感謝申し上げ、挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

午後4時25分

## 8 意見交換

(赤石議長)

雰囲気づくりということで古地副委員長の方からお願いします。

(古地副委員長)

皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。先ほど、会長の方からお話がありましたけれども、個人的にはすごく良い総合計画ができたのではないかと考えております。何が良いかというと、3回目と4回目の審議会でこのマチが目指すべき姿は何なのかということ、かなり時間をかけて喧々諤々と意見を戦わせて、そういうことができたという点において、非常に良かったと感じております。

先ほどから何回も出ておりますけれども、「エエ町、江差」にかかっているキャッチフレーズの部分。その部分を今後、町長もおっしゃいましたけれども、皆様も含めてこれをどう血肉化していくかということが、江差町の今後の行方を左右していくことになると思います。誇りのあるマチとか、誇りのある暮らしという抽象的な言葉になっております。その中には、前回キーワードとして出てきた部分もございます。それは実際にどのようなところに落とし込んでいけるのか、それぞれ皆様方の分野でもそうですし、町の行政の施策の中でも考えていただきたいと思っております。果たして、ある施策が出された時に、それが未来につなぐ施策となっているのかどうか、みんなで作るという包摂的なものになっているのかどうか、誰かを排除してはいないのかどうか、それは本当に江差が培ってきた誇りある暮らしを体現しうるのか、それを強化できるのかどうか、そういうことを考えながら施策を見ていただきたいし、そうしながら総合計画を育てていただきたい。私自身も関わらせていただきますし、皆様が地域での活動する中で、ここに帰りながら、常に「エエ町、江差」の前についている部分に戻りながら、考えていただければと思います。それを皆様は、他の人にも伝えなければならないということもありますので、皆様が地域の活動のなかで、他の人が「こういうことをやろう」といった時に、それがこの総合計画のどこに位置するのかということも考えながらやっていただくと良いと思っております。

話は変わりますが、カナダに2週間ほど行ってまいりました。私の専門の移民政策に関する聞き取り調査で行って来ました。今回はカナダの地方都市です。函館よりも人口が少ない場所にも行ってまいりました。そこで何を知りたかったかというと、まさに江差とかと同じように、人口減少・若者流出・少子高齢化、地域のインフラをどのように維持するのか、同じような課題を抱えているところが、今ものすごく移民を受け入れております。人口としては増えているのけれども、元々住んでいた人の移民を除いた人口トータルを見ると減っております。すごいスピードで減っております。それを辛うじて移民で補っているという状態になっております。そこで話を聞いていて、全くここと同じ状況です。そういうなかで、江差でも今、こういうことをやっていますと話をすると、特に行政関係者もそうですが、皆さん、身を乗り出して聞いてきます。そのように日本の町までやっているんだと。あまり細かい部分まで説明する時間はなかったのですが、皆さんにお伝えしたいことは、私も前々から言っておりますが、皆さんが今、江差で取り組んでいることは、少なくとも先進国の地方都市に通じる課題です。普遍的な課題に皆さん取り組んでおられるということをご意識していただきたいと思っております。ですから、江差の中だけでやっているという話ではなくて、江差で取り組んでいることが世界に対してメッセージを発信できる、「世界の中の江差」という視点も常に持っていただきながら、世界のモデルになっていただきたいと私は常に思っております。でないと、江差の話をしてはきけません。そこで、どういうことをやるのかということ、ある意味、世界は江差を見ていると言っても過言ではないと思っております。港町として、外の世界とつながってきた町であります。もっと広げていただいて、まさに世界に向けて、これを出来れば英語に訳してWEBサイトに載せたいぐらいですけれども、それぐらいのメッセージ性がある総合計画ができたと思っております。それは、この町からできたものだと私は思っておりますので、ぜひ、皆さんと一緒に取り組んで行きたいと思っております。

(C委員)

この度、委員を受けさせていただいて、一応皆勤賞です。良いものができたということで思っています。策定審議会委員というよりも、ある意味で一町民として参加させていただきました。

今回の案内をいただいた時に「最終回」とあったものですから、今日で解任になるものと思っておりましたが、今お話を聞くと年に1～2回さらにあるということで、本腰を入れてこの計画がきちんと遂行されているかどうかということ、しっかりと確認していかなければならないということ、これを改めて思ったところです。

(D委員)

C委員がおっしゃったとおり、私も見守って行きたいと思います。

(E委員)

なかなか出席がかなわず申し訳ございませんでした。仕事上、農家さんをはじめ色々な業種の方々と関わっておりますので、少しでも江差を中心に檜山が元気になっていただければと思いますので、微力ですがこれからも協力させていただければと思っております。

(A委員)

今回このようなメンバーに選んでいただき、江差に戻って20年近く経ちますが、知っているようで知らない江差だと、新たな発見がありました。

今現在、商売の他に江差小学校のPTAの役員をしております。子どもの学ぶ環境だとか、学校の先生方との意見交換ですとか、改めて思うことは、江差の人口が減ってきて、どうしても高齢化が進んでいくと思いますが、だからと言って子どもがゼロになる訳ではないので、高齢化の方は詳しくないので専門の分野にお任せするとして、どちらかというところから少なくなるであろう子ども達の方に向けて、今自分が出来ることに少しずつ力を注いでいきたいと思います。

上の娘が小学校6年生なのですが、人口推移の表をこの間見せたら非常に驚いておりました。「江差ってこうなの」と。自分が大人になったらこの町はないのではないかと心配しておりました。小学校6年生ぐらいになると、言ったことは大体理解出来ますし、自分なりの考えも持てますので、今後その点も踏まえて、小学校高学年や中学生に対して発信できることがあれば、微力ながらもそういった面では協力出来るものと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

(F委員)

すべての回に参加することができず、申し訳なく思っておりますけれども、このような機会をいただきありがとうございました。今回出来上がったものは枠組みであると思っておりますので、これからだと思っております。自分ができること、ますます人を巻き込んで自分も楽しむ余裕を持ちながら、今後ともやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(G委員)

皆様、そして事務局のみなさん、大変お疲れ様でした。自分はこのような審議会に参加させていただく経験がなかったので、自分の中ではすごく勉強になりました。感謝しております。

私は江差追分という立場で参加させていただいたのですが、江差追分もそうですが、全国的に地域の民謡が好きだった年代がどんどんいなくなっています。若手もがんばっているのですけれども、地元の方は「江差追分は難しい」「特別な唄だ」という印象が強いようです。身近にあるようで身近ではない。この先、江差追分を唄う一人として、地元之宝があるので私は未来に向けて、生活に密着したものとして、それが完璧に唄えるということではなくても広げていければいいなと思っております。

沖縄の文化は、普通に知らない家に遊びに行っても、みんなの家に三線があって「北海道から来たのかい」「一曲プレゼントするさ」みたいな感じで唄ってくれたりとかします。子どもの指笛があって、中学校になるとエイサーという太鼓を叩いて、女の子は四つ竹という流れが自然にできている。なので、いつも沖縄に行くと沖縄の文化が羨ましいと思っていました。江差も、何かわからないけど色々なお宅に誰かが来た時に、おもてなしで江差追分を披露できたら、みんなが口ずさむことができたら、そんな唄になるように私も活動していければと思います。

#### (H委員)

正直この一年、自分自身でいにしえ資源研究会の方での活動があまりできませんでした。家のことですか、子どものことで結構、2人小学生に上がると2人の世界ができてきて、子ども達の世界をサポートすることで精一杯で、まちづくりまでとなると本当に体がたくさんほしいと思いつつながら、やりたいことがたくさんあるのにも思いつつながら、やってきた一年でした。他のお母さん方の話を聞いていても、何せ人が少ないということで、PTAの活動にしても少年団の送迎にしても役員活動にしても、みんな同じ人が兼務してやっている状態なので、少しでも総合計画のようなもので、そういった方々の負担が自分達ごととして、抱え込むということではなくてちょっとでも気持ち的にも仕事のことも分散できるようになれば良いのかなと思います。高校が終わるぐらいまでは、そういったことが続いてしまって、活動がなかなかお手伝いできないかなという理由にもなるのですが、後継者という部分も模索しながらなんとかがんばっていきたいと思っております。

#### (I委員)

みらい機構という単語が今日は何回か出てきました。出る度にドキドキしておりました。さらに努力しなければいけないと、皆様から期待をいただいていると身が引き締まる思いでございます。我々の活動がそのまま総合計画の一部ですけれども、成果に結びつく立場にあるということで、10年間勤めあげたことはありませんけれども、気を抜けないと思っておりました。そのなかで各界を代表する皆様のお知恵をお借りすることがあるかと思っておりますので、その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

#### (J委員)

私も色々な役柄をいただいております。今、檜山漁業士会という活動のなかで、江差中学校を中心にナマコの体験学習などをやっています。これを始めた経緯は、一人でも地元でこのようなことに携わっていただきたい、ぜひ漁業に対しても理解していただきたいとの思いのなかでやらせてもらっております。その他に食育ということで、毎年一回ですが檜山管内の学校の方に行って魚などの食育等もしております。そのなかには、漁師の息子さんや娘さんもいるのですが、なかなか後継ぎには興味を持っていない。地元から離れている方が大半です。江差もそうですが、漁師に限ってはものすごく後継者不足となっております。高齢者でやめていく人が多い。今は働き方改革などで組合の方も厳しい状況になってきております。組合が苦しい状況になるということは、組合員、漁師も苦しくなる。これも是正していかなければならない。

この計画のなかでも、やはり地元をなんとか盛り上げようとやっているわけですが、なかなかそのようになっていかないのかなと思う。地元に残ってくれる、就職をしてくれる方が減ってきている。このような部分を課題として考えながら、自分達がやれることを、ぜひ残していくことをやっていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

#### (K委員)

長期間にわたりご審議いただきました委員の皆様、お疲れ様でした。計画をまとめていただきました事務局の皆様、お疲れ様でした。私もこの審議会に参加させていただきました。素直にキャッチフレーズを聞きまして良いと思っておりました。三年間、この地で勤務させていただいており、

思うこととしては、行政の地域への関わり方というものが、昔は自分のことだけをやっていけば豊かにやっていけた時代であったのですが、今は低成長になって、人口がどんどん減って行く。その中でどうやっていくのかと。やはり地域との関わりについても、時代によって変わってきている。最近、良く言われるのは地域力の向上という言葉ですが、そんなに難しい言葉ではなくても良いと思います。それぞれ、皆様方の一人ひとりが地域に関心を持ってもらって、濃淡はあると思いますが、例えば地域でやっていることに対して、観光であればどういうことをやっているのだろうかとか、少しでも関心を持っていただけると、ナマコの関係でもそうです。少しずつの興味・関心が地域の興味・関心へと変わっていき、地域の力が上がっていく。そういったためにも、こういった計画は地域の将来が見えるという部分では、非常に必要なことだと思いますので、活用しながら、これができたことがゴールではないので。進展ができれば良いと思います。

(太田教育長)

お疲れ様です。5回の審議会を開催されてきたということで、古地副委員長も言うておりましたが、喧々諤々とこのマチが10年後に目指す姿を真剣に討論されて、皆様方の思いも聞いて、色々と感じました。今回の委員さんのメンバーを見ますと、いつものメンバーと違って、多種多様な分野から出席していただいて、本当に良い計画ができたのではないかと思います。

教育に関しましては、この総合計画の基本構想や基本計画が基礎になるとは思いますけれども、来年度から私共の教育の方もこれをベースにした教育の推進計画をたてていきます。町教委のキャッチフレーズは子ども達が「ふるさと江差に心の向く教育」としてやっておりますが、ぜひこのキャッチフレーズの中に「エエ町、江差」の実現を目指して、そういった教育をつくっていきたいと思います。本当に10年後、20年後に子ども達がこの町から離れても、自分の地域、ふるさとの江差に常に心が向く教育を実現してまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。

(田畑副町長)

それぞれのお立場からご発言をいただきありがとうございます。町長からは、答申をいただいた直後に町長の気持ちを含めて皆様にお礼を申し上げたところです。

私は10年前に、この一つ前の計画の際、課の名前は違い担当ではございませんでしたが、所管課の一人でした。前の助役が課長で、その時も終わった後にこの委員で検証をしようというお約束をした記憶がよみがえってきましたけれども、開催できなかったという反省があります。ぜひこの委員の皆様を含めて、町としても年に一回から二回、きちんと検証していくことを私からもお約束させていただきたいです。

話は変わり、ある会合でも言いましたけれども、少子高齢化という言葉に慣れ親しんでおりますが、少子化が問題なのか高齢化が問題なのか、という質問が出ましたら、答えは少子化でございます。人口が多いので高齢化と言いますけれども、少子化を防ぐためどのようにして子どもをたくさん増やすか、そういったところが江差町だけではなくて、国策にも通じます。昔のように漁師の息子が漁師を継ぐとか、農家の兄弟の一人が継ぐとか、商店も誰か子どもの一人が継ぐという時代が今は違って、都会へ出て行ったら帰ってこない。しかし、目指すところは一回外へ出て、先ほど何人の方が言われたように、出てもこの町に帰ってきて仕事をする。そういった場をどうやってつくっていくのかが、皆さん共通の願いだろうと、このように思っております。これからも皆様のお力をお借りして、「エエ町、江差」にしていこうと思います。委員の皆様本当にありがとうございます。

(赤石議長)

それぞれのお立場からご発言いただきました。

策定審議会が総合計画をつくる作業は、本日が最終でございます。皆様のおかげでこのような

立派な計画ができたことを本当に心から感謝申し上げます。

そして、これは終わりではなくて、これから新しい一歩がスタートするところですので、これからは皆様と一緒に、この江差が良くなっていくように、大事なものが残っていくように、「エエ町、江差」になるように、これからもご協力をいただきまして、そして、それぞれの活動の中でご活躍していただきますようお願いいたしまして、本日の審議会を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

(はいの声)

9 その他

(赤石議長)

その他、委員の皆様や事務局の方から、何かございませんでしょうか。

(なしの声)

午後5時00分

10 閉会

(赤石議長)

以上を持ちまして、第5回江差町総合計画策定審議会を閉会します。  
皆様たいへんお疲れ様でした。ありがとうございました。

以上。